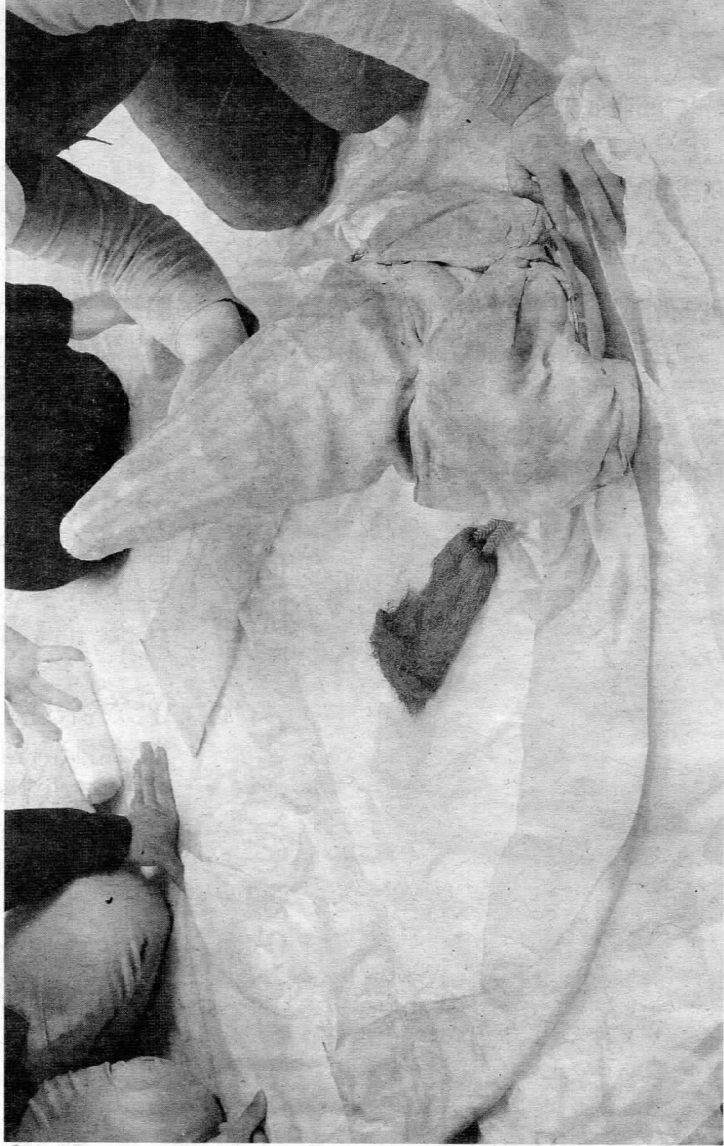


上杉謙信の白頭巾 修理始まる

山形 400年以上前の原形とどめ



戦国武将の上杉謙信が身に着けたとされる烏帽子形白綾頭巾（上杉神社提供）

戦国武将の上杉謙信を祭る上杉神社（山形県米沢市）が所蔵する国の重要文化財で、謙信が身に着けたとされる白頭巾の修理が始まった。公開を禁止する文書が明治時代に残され、存在は地元でもよく知られていなかった。修理後は謙信の没後45

0年に当たる2028年か、生誕500年の30年に一般公開される予定だ。白頭巾の正式名称は、烏帽子形白綾頭巾。先がとがった烏帽子部分は高さ54センチ、垂れた部分の長さは96センチ。絹製で、表面に松竹梅の模様が

28年にも一般公開へ

ある。これまでに修理した記録なく、事前に文書などで中の構を知る。

白頭巾は謙信がかぶったとされるぶつたとされ、その姿は武田信玄と川中島の戦い（1564年）の合戦図や、で描かれている。ただ、白頭巾の資料はほとんど残っておらず、詳細は分かっていない。同神社蔵「稽照殿」館長の角屋由人（65）は「とがった形が僧のよう。戦の際、謙信が帰依し、真言宗を尊信してかぶったのいか」と推測する。

上杉家では謙信のもので、同神社に移るまで同家にあり、木箱に入れていた。激しい状態を心配した最後の主の上杉茂憲が降参置員後の代、「上杉家の執事が替わった確認するほかは開けてはいけ」とする文書を残したため、ほとんど公開されていなかった。信濃後450年などの節目を、同神社は上杉家の同意を得て修理と今後の公開を決めた。

修理は今年6月から京都府内の文化財保存修理所（京大）で始まった。白頭巾のほか、長が謙信に贈ったとされるとのマントなど計4点が対象で、3月までの予定。白頭巾は折れみがある状態とみられ、自立的な状態だが、単体で自立するを目標とする。

角屋さんは「400年以上のがほぼ原形をどめて残った『奇跡』を見てほしい。後世に感動を共有したい」と話した。